

テーマ:

りんごの思い出を「かたち」にしよう！ できたよ「リリコかるた」

宮崎県
幼保連携型認定こども園
日向南こども園
柴田先生



この活動の特徴



「凜々子」活用のポイント①

文字で伝え合う楽しさや、おうち時間を家族で楽しむアイデアとして発信した

「凜々子」活用のポイント②

子どもたちが感じた発見や気づきを「かたち」にして残した

活動のねらい



- 子ども同士の関係や親子の関わりが深まる活動にする
- 互いを認め合ったり、達成感を感じたりすることで自発的な成長を育む

活動の概要と流れ

対象学年 : 3・4・5歳児（42名）
実践期間 : 4月～10月

時期	学習活動
4月	子どもたち一人ひとりの手で定植
5月	水やり・観察
7月	収穫開始
9月	クッキングで「リンゴ入りトマトジャム」を作る
10月	5歳児が「リリコかるた」を制作 できあがったかるたを全園児に披露 3・4歳児に、かるたの遊び方を教える “おうちで楽しむ親子制作”としてお便りを通じて保護者にかかるたを紹介



ここがポイント！ 取組の工夫と実践の成果

食べるだけではない 今年の食育は「かたち」にする

今までの食育活動は調理実習で終わっていましたが、活動の中で子どもたちがさまざまな言葉や姿で表現する発見や気づきを「かたち」にして残したいと思いました。そこで今回は、子どもたちの好きな遊びでもある「かるた制作」に取り組むことにしました。

「自分のリリコ」という想いを大切にして表現活動に挑戦

苗を一人1本ずつ子どもたち自らが定植することで、凧々子に対する愛着が生まれ、率先して世話をするようになりました。順調に成長している凧々子の姿を観察し、スケッチブックに思い思いの観察画を描く子どもたち。「葉っぱもリリコのおいがする」、「花のおしりにリリコの赤ちゃんができてる」など、よく観察して感じ取った発見を友だちと伝え合い、一緒に活動する楽しさを味わっていました。欠席している友だちの苗に水をやる姿も見られ、思いやりや優しい気持ちも育むことができました。



真っ赤な凧々子が ジャムに。そしてかたちに

真っ赤に熟した凧々子をみんなで収穫し、クッキング開始。「落としたりもったいないよ」と慎重にトマトを運び、凧々子の皮を丁寧にむいてつぶしたものにリンゴを加えて煮詰めてジャムを作りました。このジャムを作る過程には、いろいろな人が携わってくれました。それを理解することで「ありがとう」という感謝の気持ちを育むいい経験にもなったと思います。

5歳児クラスではかるたを制作しました。トマトの形の絵札に「こんな色だったね」、「中に種があったね」など、友だちと楽しく会話をしながら色を塗りました。読み札は、文章を一人ひとりが考え、覚えたてのひらがなを使って一生懸命書きました。先頭のひらがなを意識して文章を作ることに少し苦戦したものの、凧々子の姿を思い浮かべ、「こんなことができるといいな」と想像しながら、文字で伝え合う楽しさをみんなで感じました。できあがったかるたは、5歳児が全園児に披露。3～4歳児クラスには遊び方を教えに行きました。

また保護者にもおうち時間を楽しめる親子制作として、おたよりなどを通じて紹介。凧々子を通して共通の話題ができ、子ども同士の関係や親子の関わりが深まる活動となりました。



先生から一言！ 実践を通して

今までは栽培から調理実習で終わっていた凧々子の食育活動。かるたを制作し「かたち」に残したことで、かるた遊びをするたびに凧々子を思い出して成長の様子などについて会話が弾み、一年を通して共通の話題とすることができました。また、5歳児は自分たちが作ったかるたでみんなが楽しく遊ぶ姿を見て、年長児としての充実感や労わる気持ちが強まったり、3～4歳児は、かるた作りの方法を教えてくれた5歳児の姿を、「自分もあんなにかっこいいお兄さん、お姉さんになりたい」と思ったようで、よいお手本となりました。



受賞理由

栽培と調理活動から一歩進めてかるた作りに挑戦したことは、文字を書くことを覚えた5歳児だからこそ可能となった活動です。そのかるた遊びを通じて3～4歳児との交流を深め、お互いの年齢に応じた学びが貴重な経験となりました。一年を通して凧々子を共通の話題とできたことも先生方の工夫に脱帽です。